

特集：卒業

生物学類学生表彰を受賞して

高橋 玄（筑波大学 生物学類 3 年）

「虫博士になりたい」、これが私の子供の頃の夢でした。当時の私は、研究者がどのようなものか分かってはいはずもなく、ただ虫が好きだからという理由でそのような夢を抱いていました。それから小学校、中学校、高校と年を重ねていっても、私の虫好きは変わらず、むしろより濃くなっていったともいえます。

大学生になった私は早くから研究を始めたいと思い、オープンラボの時に渡辺守先生の研究室を訪ね、ゼミに参加したいとお願いをしました。それから毎週、渡辺研のゼミに参加することになり、1年生の間は、毎週1回の論文発表を行っていました。知っていると思いますが、生物学類1年の授業数はかなり多く、授業がない時間がほとんどなかったのも、とても忙しかったです。でも、忙しい中にもやりがいがあり、自分のまとめた論文に対する先輩や先生の批評を聴いているうちに、研究に対するイメージがより具体的なものになっていきました。

2年生になって、私自身も研究を始めたいと思い、アメンボ類を対象に研究を始めました。2年の時は、ヒメアメンボとナミアメンボの繁殖戦略の比較を行っていました。そのために、両種を解剖して卵巣内の卵を数えました。今まで、昆虫は採集したら飼育するのが普通だったので、解剖するのは初めての経験でした。普段は外部から行動や形態ばかり見ていたので、解剖して卵巣などの組織を見るのはとても新鮮でした。ただし、そう簡単に解剖のスキルが身につくわけでもなく、初めにうちはよく分からないままバラバラにしてしまうことがありました。それでも、何度も解剖しているうちに10 mm 程度しかないヒメアメンボの卵巣を摘出できるようになった時は、技術が上達したことをうれしく思った。

夏休みが終わると、先生にデータをまとめて動物行動学会で発表するぞと言われ、期末テストの翌日から始まる学会に向けて準備を始めました。正直に言うと、この作業が想像以上に大変だった。1年生の時の基礎生のレポートは、自分でもいい成績をとっていたと思っていたし、無限レポートも2回とも1回で合格できていたので、考察なんてすぐにかけると高を括っていた。私が発表原稿は徹底的にダメ出しをされて十数回におよぶ先生とのやりとりの結果、ようやく"OK"をいただいた時、改めて自分の初稿を見直したら「これは見るに堪えない」と思ってしまった。

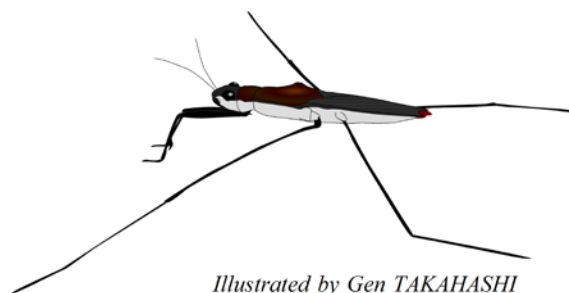
研究を実際にやってみて、その楽しさも厳しさも経験した2年生の終わり、私は大きな選択を迫られていた。私は、夏に国際学会に行ったとき、先生から「早期卒業しないか」と言われていた。その時は、突然のことだったので、すぐには決断ができず、そのまま引き延ばしてしまっただけ。早期卒業する利点を先生に尋ねたところ、先生に「自慢できること」と言われてしまった。もちろん、早期卒業すれば、しない人と比べて、有利になるのは間違いないが、日本では早期卒業が普及していないのでどこまで評価されるかは分からないらしい。

早期卒業は、私にとって大きなチャンスであると同時に、大学での課程を1年縮めなければならない。卒業研究をやりながら、単位をとらなければならないというのがありますが、私にとってはそれは大きな問題ではありませんでした。むしろ、1年早く大学院生になるということの方が重大な問題に感じました。私は他の大学院1年生と比べ、経験、知識、そして時間も1年分不足している状態からのスタートになってしまうことを一番不安に感じていました。

色々悩んだり、先生に相談した結果、私は早期卒業をすることを決意しました。私がそれを決意できたのは、「やらずにする後悔よりも、その一步を踏み出した方が良い」と思ったからです。早期卒業すると決めてからは、時間があつという間に過ぎていくような気がしました。3年からの1年間は、授業と生物学演習、卒業研究で忙しく、気が付けばもう卒業していました。しかし、本当に大変なのは早期卒業後だと思っています。

「生物学類学生表彰を受賞して」というタイトルで、この文章を書いていたのですが、自分ではなぜ受賞できたのだらうと思っています。正直、私は自分なりにやりたいことをやってきただけ、それが評価されたのは嬉しいですが、何を書いたらいいのかわからず、とりあえず3年間の軌跡を綴りました。やりたい放題やってきた私ですが、それでも最後に、この文章を読んでくれた後輩に一言残したいと思います。大学生活の中だけの話ではありませんが、自分を成長を促せるチャンスに巡り会えたら、是非自分を信じてそれをつかんで下さい。世の中、やってみなければ分からないことばかりです。私自身も、「やってみたらたいしたことなかった」、「やってみたら思っていた以上に難しかった」という経験はたくさんあります。研究もその1つで、自分で実験して、その成果をまとめてみて、初めて研究というものを知った気がします。「当たって砕けろ」ではないですが、「当たった後は、意地でも砕けるな」くらいの気概で頑張ってください。

人よりも短い3年間という大学生活でしたが、非常に多くの人の支えのおかげで、無事卒業することができました。この場借りて、御礼申し上げます。



Illustrated by Gen TAKAHASHI

ナミアメンボ, *Aquarius paludum* のイラスト